学校番号	T3017

平成 31 年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	書道Ⅰ（教育出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

以下３つの学習に取り組みます。
　1　書写力の基礎から一般実用的書まで。
　2　大筆、小筆、ペン字の技法。
　3　鑑賞
なお、３の鑑賞ついては作品を全員とともに鑑賞し、参考にして自分の作品へ取り入れます。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して，生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，書写能力の向上を図り，表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし，書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a：書への関心・意欲・態度	b：書表現の構想と工夫	c：創造的な書表現の技能	d：鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい，書の伝統と文化に関心をもって，主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り，感性を働かせながら，自らの意図に基づいて構想し，表現を工夫している。	創造的な書表現をするために，基礎的な能力を生かし，効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し，その価値を考え，書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	授業への出席、書道への関心、作品制作プリントの提出状況、実技テストへの取り組み姿勢等の学習態度を評価する。	授業の中での実践の状況やレポート等の内容で評価する。	制作の過程の観察、レポート、提出作品等で評価する。	レポート、授業中の発言内容、発表の内容等で評価する。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

月	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4 5 6 7 8 9	自分の名前を書く 左手で文字を書く 楷書 古典臨書 ・九成宮醴泉銘 ・孔子廟堂碑 写経	名前のポイントを指導し、自身を持たせる。 書くことに自由さを表現し、文字への興味を向ける。 基本点画、永字八法を学ぶ。 起筆、送筆、収筆の３つの要素を習熟。 強く筆を運び、精密な点の組み立てを学ぶ。 力を内に含んだ線と品格の高い書風を学ぶ。 小筆への取り組み（楷書）。	○	 ○ ○	○ ○	 ○	a:書の伝統と文化に関心をもち，主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 b:楷書の美しさを感じ取り，感性を働かせながら，自らの意図に基づいて構想し，表現を工夫している。 c:基礎的な能力と，効果的な表現の技能を身に付け表している。 d:自他の作品について良さやおもしろさに気づいている。	制作の過程の観察 提出作品 作品制作プリント
10 11 12 1 2 3	篆刻 文化祭出品の作品づくり 行書 古典臨書 ・蘭亭序 年賀状 かな文字 俳句づくり	書道における篆刻の意義、芸術性の理解を深めて製作に取り組む。 色紙、象形文字創作。 基本点画・用筆・運筆法を学ぶ。 ゆっくり運筆し、細部まで力のこもった線が書けるよう、重厚な感じを学ぶ。 仮名の単体、連綿を指導、散らし書き。 自分を表現する俳句をつくり、作品を仕上げる。	○	 ○ ○	○ ○ ○	○ ○	a:書の伝統と文化に関心をもち，主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 b:行書の美しさを感じ取り，感性を働かせながら，自らの意図に基づいて構想し，表現を工夫している。 c:基礎的な能力と，効果的な表現の技能を身に付け表している。 d:自他の作品について良さやおもしろさに気づいている。	制作の過程の観察 提出作品 作品制作プリント

※　表中の観点について　a:　書への関心・意欲・態度　　b:　発想や構想の能力
　　c:　創造的な技能　　d:　鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。